Clinic
働くあなたのクリニック

# 肝臓にがんがあると言われました

## Q 肝臓って何をしているの？

肝臓は、身体の化学工場ともいわれており、５００種類以上の働きがあります。主には３つの働きがあります。一つめは、栄養の生成・貯蔵です。腸で細かく分解・吸収された栄養素は肝臓に運ばれ、タンパク質や脂質といったからだに役立つ栄養分に合成され、貯蔵されます。過度な栄養の取りすぎは脂肪肝から肝炎を引き起こし、がんの原因となることもあります。二つめは解毒です。体内に取り込まれたアルコールや毒素など体にとって有害なものを無害な物質に変えます。肝臓の処理能力を超えてアルコールを摂取し続けるとアルコール性の肝炎や肝硬変を引き起こし、これも肝臓がんの原因となります。三つめは、胆汁の合成です。胆汁は肝臓で合成されたのち十二指腸に流れ、脂肪の分解を助けます。これがうまく働かないと黄疸をきたします。

## Q 肝臓のがんにはどんな種類があるの？

肝臓がんは、主に３種類に分けられます。一つめは、肝細胞がんです。一般的な肝臓がんはこれを指します。肝細胞がんは、ウィルス性の肝硬変やアルコール性肝硬変、脂肪肝など元々の肝臓の病気がある人に多く発症します。二つめは、肝内胆管がんです。これは肝臓の中にある胆汁を運ぶための管、胆管の細胞からできるがんで、比較的珍しいです。最後は転移性の肝がんです。多くは大腸がんなどの消化器がんの転移ですが、他様々ながんの転移が生じます。

これは、もともとのがん、例えば大腸がんの転移であれば、大腸がんの性質を持ちます。

## Q どういう検査で見つかりますか？

健康診断や通院先での採血による、がんマーカーの上昇や肝機能異常、腹部エコーによる腫瘤の疑いなどで肝臓がんを疑った場合、造影ＣＴやＭＲＩなどの検査で診断を確定します。診断がはっきりしない場合は、針で刺して組織を取る肝生検が行われることもあります。

## Q 治療はどのようなものがありますか？

肝臓がんの種類にもよりますが、抗がん剤による治療や、肝臓に針を刺して腫瘍を焼くラジオ波による治療、肝臓の腫瘍が栄養とする動脈を詰めてしまう塞栓治療などがあり、これらを組み合わせることもあります。また、腫瘍の状態やがんの種類によっては手術が選択されることもあります。手術はがんを完全に治すこと（根治といいます）ができる可能が高い治療法です。

## Q 肝臓の手術って？

肝臓は再生する臓器です。正常の肝臓であれば６～７割の切除が可能です。また、切除された肝臓は、すぐに再生が始まり、２週間ほどで元の大きさ程度に戻ります。そのため、複数回の手術も可能となります。肝臓の手術は、元の肝臓の機能や腫瘍の大きさ・性質・位置などによって様々であり、どのような手術を行うかは、経験豊富な外科医により術前に十分な検討の上決定されます。がんとその周囲の肝臓を少しとる部分切除から、肝臓の３分の２以上を切除するような３区域切除といった大きな手術もあります。また、腹腔鏡を用いて手術を行うこともあります。肝臓は非常に血管の豊富な臓器であり、手術の難易度も高いため、肝臓手術領域における専門医が年間多くの手術を行っている施設での手術をお勧めします。

今月の先生

岐阜市民病院　外科
**佐々木　義之** 先生


○専門分野
肝胆膵外科
○役職
肝・胆・膵外科部長
○主な資格、認定
日本外科学会指導医・専門医
日本消化器外科学会指導医・専門医
日本がん治療認定医機構がん治療認定医
日本肝胆膵外科学会高度技能専門医

○卒業年、主な職歴
平成10年岐阜大学医学部卒
岐阜県総合医療センター
岐阜大学腫瘍外科臨床講師